

# 平成21年度武雄市財務書類(普通会計)

※総務省基準モデルによる作成

## 貸借対照表(バランスシート)

普通会計(一般会計と土地区画整理事業特別会計の合計)で所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

**資産 793億5,257万円**

普通会計ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。

<b>【内訳】</b>	
<b>1. 公共資産 632億3,539万円</b>	
(1)事業用資産 297億7,497万円	庁舎、学校等
(2)インフラ資産 334億6,042万円	道路、公園等
<b>2. 投資等 135億3,529万円</b>	
(1)投資及び出資金 39億5,696万円	
(2)貸付金 3億7,875万円	
(3)基金等 91億9,958万円	
<b>3. 流動資産 25億8,189万円</b>	
<b>(1)資金 14億6,360万円</b>	
(2)未収金等 11億6,009万円	市税等
(3)貸倒引当金 △4,181万円	

**負債 294億3,158万円**

普通会計ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。

<b>【内訳】</b>	
<b>1. 固定負債 278億6,793万円</b>	
(1)地方債 237億4,384万円	
(2)退職手当引当金 41億2,409万円	
(3)借入金等 0万円	
<b>2. 流動負債 15億6,366万円</b>	
(1)翌年度償還予定地方債 9億1,985万円	

**純資産 499億2,099万円**

現在までの世代が負担した金額で、正味の資産

**(資産) = (負債) + (純資産)  
= 793億5,257万円**

## 市民一人あたりの資産・負債

資産 154万5千円  
(うち、公共資産 123万1千円)

負債 57万3千円

純資産 97万2千円

## 資金収支計算書

1年間の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(20年度末)資金残高 6億2,697万円

当期資金収支額 8億3,663万円

<b>【内訳】</b>	
経常的収支(a) 31億9,258万円	
資本的収支(b) △5億1,640万円	
基礎的財政収支(a+b) 26億7,618万円	
財務的収支 △18億3,955万円	

期末(21年度末)資金残高 14億6,360万円

## 純資産変動計算書

1年間の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(20年度末)純資産残高 495億9,005万円

当期純資産変動額 3億3,094万円

<b>【内訳】</b>	
純行政コスト △172億7,450万円	
財源の調達 224億6,040万円	税収、国や県からの補助金等
その他 △48億5,496万円	

期末(21年度末)純資産残高 499億2,099万円

## 行政コスト計算書

1年間の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A) 186億5,986万円

**【内訳】**

<b>1. 人にかかるコスト 43億3,064万円</b>	職員給与、退職手当等
<b>2. 物にかかるコスト 42億24万円</b>	物件費、減価償却費、維持補修費等
<b>3. 移転支出的なコスト 95億6,356万円</b>	生活保護費などの社会保障給付、他団体への補助金等
<b>4. その他のコスト 5億6,542万円</b>	

経常収益(B) 13億8,536万円

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。

**純行政コスト 172億7,450万円**

総行政コスト(A) - 経常収益(B)  
純粋な行政コストです。

## 市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト 36万3千円

経常収益 2万7千円

純行政コスト 33万6千円

※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

# 平成21年度武雄市財務書類(単体)

※総務省基準モデルによる作成

## 貸借対照表(バランスシート)

普通会計、特別会計及び企業会計をひとつの行政サービス実施主体(単体)とみなして市全体の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

**資産 1,141億9,131万円**

単体ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。

【内訳】

<b>1. 公共資産</b>	<b>951億2,565万円</b>
(1)事業用資産 庁舎、学校等	309億2,117万円
(2)インフラ資産 道路、公園、下水道等	642億448万円
(3)繰延資産 市債発行費、開発費等	0円
<b>2. 投資等</b>	<b>149億2,157万円</b>
(1)投資及び出資金	44億5,656万円
(2)貸付金	3億7,875万円
(3)基金等	100億8,626万円

**3. 流動資産 41億4,409万円**

<b>(1)資金</b>	<b>24億4,286万円</b>
(2)未収金等 市税等	17億8,721万円

**負債 438億4,776万円**

単体ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。

【内訳】

<b>1. 固定負債</b>	<b>416億8,549万円</b>
(1)地方債	375億6,140万円
(2)退職手当引当金	41億2,409万円
(3)借入金等	0円

**2. 流動負債 21億6,228万円**

(1)翌年度償還予定地方債	12億9,363万円
(2)未払金等	8億6,865万円

**純資産 703億4,356万円**

現在までの世代が負担した金額で、正味の資

$$(資産) = (負債) + (純資産) \\ = 1,141億9,132万円$$

## 市民一人あたりの資産・負債

資産 222万3千円  
(うち、公共資産 185万2千円)

負債 85万4千円

純資産 136万9千円

## 資金収支計算書

1年間の関係団体全体の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(20年度末)資金残高 15億2,559万円

当期資金収支額 9億1,727万円

【内訳】

経常的収支(a)	44億2,723万円
資本的収支(b)	△1億4,128万円
基礎的財政収支(a+b)	42億8,595万円
財務的収支	△33億6,867万円

期末(21年度末)資金残高 24億4,286万円

## 純資産変動計算書

1年間の市全体の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(20年度末)純資産残高 700億7,600万円

当期純資産変動額 2億6,756万円

【内訳】

**純行政コスト △236億7,162万円**

財源の調達	300億9,403万円
税金、国や県からの補助金等	
その他	△61億5,485万円

期末(21年度末)純資産残高 703億4,356万円

## 行政コスト計算書

1年間の関係団体全体の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A) 405億4,965万円

【内訳】

<b>1. 人にかかるコスト</b>	<b>61億526万円</b>
職員の給与、退職手当等	
<b>2. 物にかかるコスト</b>	<b>73億9,476万円</b>
物件費、減価償却費、維持補修費等	
<b>3. 移転支出的なコスト</b>	<b>252億2,863万円</b>
生活保護費などの社会保障給付、他団体への補助金等	
<b>4. その他のコスト</b>	<b>18億2,100万円</b>

経常収益(B) 168億7,803万円

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。

**純行政コスト 236億7,162万円**

総行政コスト(A) - 経常収益(B)  
純粋な行政コストです。

## 市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト 78万9千円

経常収益 32万9千円

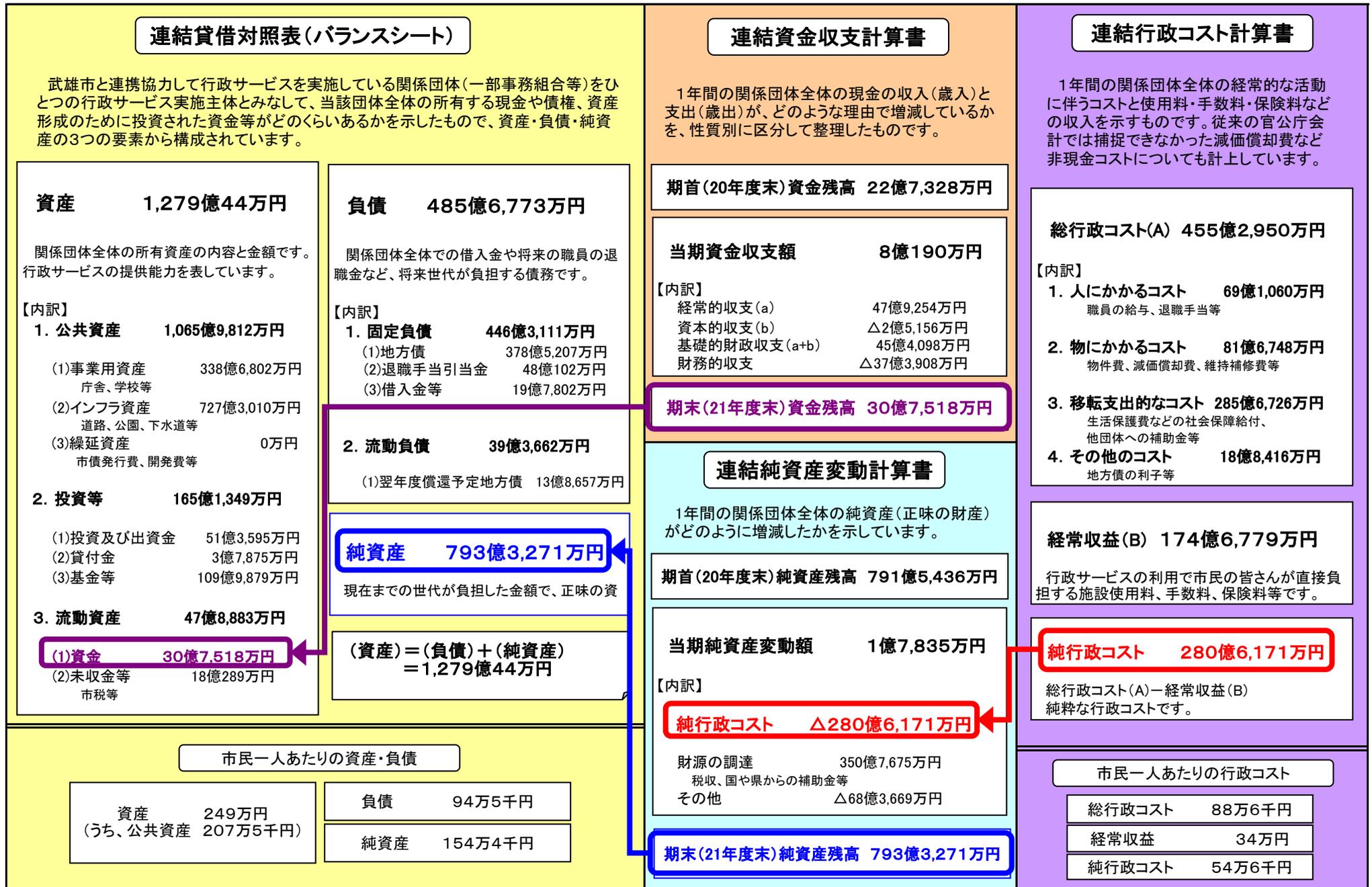
純行政コスト 46万1千円

※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

# 平成21年度武雄市財務書類(連結会計)

※総務省基準モデルによる作成



※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

※連結対象団体: 杵藤地区広域市町村圏組合、杵島工業用水道企業団、佐賀西部広域水道企業団、杵東地区衛生処理場組合、武雄市土地開発公社、武雄市体育協会